

## フィールドワークを通して

### 生活者目線で問題解決の方法を探る。

「福祉という言葉は、どちらの漢字にも幸せという意味がある。

福祉という言葉は人々の幸せを表しているんです」と橋川健祐先生。

しかし、世の中には幸せを感じるのがままならない状況にいる人も大勢います。そのなかでも橋川先生が眼差しを向けるのは過疎地域に暮らす障害のある人たち。

「評論家にはなるな」の言葉を胸にフィールドワークを重ね、

当事者一人ひとりの思いに耳を傾けています。



## 福祉の現場を支える立場から、研究者の道へ。

福祉を学ぼうと思ったのは、高校1年の時の祖父の死がきっかけです。ちょうど2000年の介護保険制度が始まった年で、祖父もデイサービスなどを利用していたのですが、日に日に認知症が悪化し、祖母や母の介護疲れもあって1週間ほど入院。それまでは祖母には感情が抑えきれずに大声を出したりすることも多かった祖父が、家に戻ってきたときには別人のように元気がなくなり、ほとんど言葉も発さないようになってしまいました。直後、一般病院に入院し、その2ヶ月後に亡くなりました。入院中に何があったんだろう、と疑問を感じ、自分の親が老いた時に同じ状況になるのは嫌だなと思い、福祉を学ぼうと思いました。入学した関西学院大学では福祉を学びつつ、社会福祉士を取得するための現場実習での出会いや学びがきっかけで、卒業後は三重県社会福祉協議会に就職。働きだして4年目の末に東日本大震災が起き、現地の災害ボランティアセンターの応援スタッフとして、震災が起こった年の4～8月に5回に渡って、岩手県上閉伊郡大槌町へ。そのことがきっかけで将来のことを考え直し、ご縁あって母校の関西学院大学に任期付きで勤めることになりました。

## 障害のある人たちの声から、地域の福祉や経済のありようそのものを問う。

社会福祉学の中には地域福祉論という分野があり、その中でも過疎地域をフィールドに、障害のある人たちがいかに働きながら住み続けていけるか、そのための政策と方法を研究しています。過疎が社会問題となって、実は半世紀以上が経過しています。近年では地方創生をスローガンに、移住を後押しする各地の取り組みも目立っています。ただ、移住をPRできる力のある自治体は良いですが、そうでない地域に移住者は関心を示しません。体力のない自治体ではさらに人口が減少し、インフラの撤退等、生活を継続することが難しくなります。その一方で、障害のある人たちの中には、家族と離れられない、住み慣れた環境でないと体調を崩してしまうなどの理由で、その地域でないと生活できない人も少なくありません。そうした地域で働き続ける障害のある人たちにお話を聞くため、岩手県や鹿児島県などの過疎地域へ足を運んできました。中でも、京都府北部の与謝野町へは通い始めて10年が経過します。そこでは、障害のある人たちが宿泊施設や地産地消のレストランの運営、自治体や地元農業者と連携し、農家で



## 橋川 健祐 准教授

HASHIKAWA Kensuke

金城学院大学 人間科学部  
コミュニティ福祉学科 准教授

関西学院大学人間福祉学部卒業。社会福祉士として三重県社会福祉協議会に就職。2012年より、関西学院大学 人間福祉学部 社会福祉実習助手として勤務。2016年同大人間福祉学部 社会福祉学科 助教授。2018年金城学院大学 人間科学部 コミュニティ福祉学科 専任講師。2021年同大同学部 准教授。

専門分野：過疎地域再生、地域福祉、  
コミュニティワーク

売れ残った野菜や果物をジュースやジャムなどに加工して販売するなど、安定的な給料を得るための創意工夫を重ねておられます。条件不利と言われる過疎地域でそのような経営がなぜ可能なのか、またそれによって本当に障害のある人たちの暮らしは良くなっているのか、探求を続けています。

### 社会課題の解決策を考え、カタチにする。

子どもの虐待や貧困問題、ワーキングプアなど、私たちの周りには多様な社会問題が存在します。これらの問題を傍観しないで「自分ごと」として解決していける、そんな学生を育てたいと思っています。3年生対象の「ソーシャルウーマンプロジェクトD」という授業もその一環で、自身が関心のある社会課題の解決策を考え、企業やNPO等と連携しながら実践までを行います。ある学生は守山警察署と協力して高齢者の特殊詐欺被害を防止するための啓発動画を作成。またある学生は就活中のセクシュアルハラスメントをなくしたいと講習会動画を作成し、今年4月に本学の全就活生に配信。さらに大手マスコミ各社でも報道いただき、広く社会へも発信しました。今年度は前期から生理の貧困問題の解消に向けての活動をスタートさせました。これからも、学生たちと生の社会課題、生活課題を題材に様々なプロジェクトに取り組み、互いに学びあい、成長し続けていきます！

## 育てよう！ソーシャルウーマン



震災前の町並みの模型

東日本大震災からちょうど10年が経過した今年11月、ゼミ生を連れて久しぶりに大槌町を訪問。震災直後、そしてその後10年を現地の語り部の方々とともに振り返りました。



大槌町文化交流センターにて

### 橋川先生担当の授業 「ソーシャルウーマンプロジェクトD」 から生まれた研究成果の一部をご紹介します。

大学のHPでも動画や詳細を公開していますので、ぜひご覧ください。



「高齢者の特殊詐欺被害防止プラン～チーム地域・家族で防ごう！～」をテーマに、守山警察署の協力を得て啓発動画やチラシを作成。この動画は今も愛知県警察の公式YouTubeで公開されています。



一般社団法人日本ハラスメント協会の協力のもとで制作した「就活中のセクシュアルハラスメント防止のための講習会動画」。本校の就職活動中の学生に配信されたほか、同協会のHPでも公開されています。



生理の貧困問題の解消に向け、企業各社様から寄付をいただき、学内にて生理用ナプキンを配布。10月下旬からは残ったナプキンを学内数箇所のトイレに常設しています。

